

誰にも聞けない「仏事の困った」にお答えします。

暮らしの中の仏事

メモリアルアートの大野屋テレホンセンターに寄せられる年間2万件のお客様からのご質問をもとに、お葬式やお墓、しきたりなど、暮らしに役立つ情報をまとめたガイドブックです。



03 お葬式参列

特集◆お葬式参列のマナー
お焼香の作法、玉串・献花の作法

08 お香典

特集◆お香典とお返しの基本
宗教別の表書きの書き方
お香典の額の目安
〈Q&A〉娘の嫁ぎ先へのお香典 など

13 のし・水引

特集◆想いを包む“のし”“水引”

17 家族葬

特集◆家族で送る葬儀

21 法事

特集◆法事の知識、困っていませんか？
〈Q&A〉故人の持ち物の整理や形見分け など

27 お墓のお手入れ

特集◆お墓のお手入れの基本
〈Q&A〉お墓参りは午前中が良いの？ など

31 お墓のお引越し

特集◆正しい手続きで行うお墓の引越し

39 数珠（念珠）

特集◆数珠の正しい選び方・使い方

お葬式 編

【のし・水引き】

特集◆想いを包む“のし”“水引き”

冠婚葬祭や日頃のお付き合いで、お金や品物を贈るときに欠かせないのが「のし」「水引き」「表書き」。文具店などではさまざまな種類のものが市販されていますが、正しいものを選ぶ知識をもっておきたいですね。

“のし”について

のしは「のしあわび」のことで、本来はあわびの肉を薄く長く切り、よく伸ばして干したものです。もとは儀式用の肴として、そののちにおめでたい贈り物に添えて用いられるようになりました。

現在は、これを形式化して、紅白の色紙を細長い6角形に折り、中に黄色い紙をはさみます。これは「折りのし」といわれるもので、黄色い紙はのしあわびを象徴しています。

さらに簡易化して印刷したものもよく見かけます。

“のし”は、あわびを表しますので、“なまぐさ物”を避けて精進を求める弔事には使用しません。

また慶事の場合でも贈る品物が鮮魚、海藻類、鶏、卵などのときには“のし”はつけません。“のし”そのものが魚介類を代表しているため、重複を避けるためです。

“水引き”について

和紙をよってこより状にしたものに、水糊を引いて乾かしたものであることから「水引」と呼ばれるようになったといわれています。

お金や贈り物の包みを、しっかりと結びとめる目的でかけられたのが始まりとされ、また神聖・清浄の意味も持つともいわれます。

水引きの本数に きまりはあるの？

中国の陰陽説では奇数が「陽」、偶数が「陰」と考えます。水引の本数もこれにならって奇数が「陽」⇒慶事、偶数が「陰」⇒弔事のこよりを用いるのがしきたりとされています。ただし現在は特にこだわらず、『慶弔ともに奇数、5本1組』とすることが多いようです。本数が多いほど、より丁寧になります。

また結婚のお祝いには、10本の水引を使いますが、10＝偶数＝「陰」ではなく、5本1組の水引を「2重」にし、より豪華にするとともに、「結婚するふたり、また両家がひとつになる」、「縁を結ぶ」という意味がこめられているといわれています。

生きている限り、「もしもの時」は必ずやってきます。大野屋テレホンセンターにはもしものとき、「何をすればいいのでしょうか?」「どこに連絡したらいいのかわからない」というご相談が多く寄せられます。ほとんどの方が悲しみのなかで混乱して、何をすればいいのか考える余裕がなくなってしまうようです。

人は普段、お葬式のことを考えていません。「何をどうしたらいいのかわからない」のは当たり前で、葬儀に参列した経験があっても、当事者になれば勝手が違います。

当事者になった際は、必ずやらなければならない手続きと支払わなければならない

ない金銭の負担が待ちかまえています。

葬儀の準備や対応、公的手続きなど約100項目にも及ぶことを、悲しみのさなかにおこなわなければならないといわれています。

悲しみのさなかで、故人を悼む間もなく緊急連絡。「もしものとき、しなければならぬこと」はここから始まります。

葬儀社選択に手配や打合わせ、会葬者のリスト作りなど、決めなければならないことが目白押しです。親族の意見の調整が必要なことも次々に出てきます。特に葬儀関係については待たなしの実行を迫られます。お通夜、お葬式を営むまでに、

もしもの時、しなければならないこと

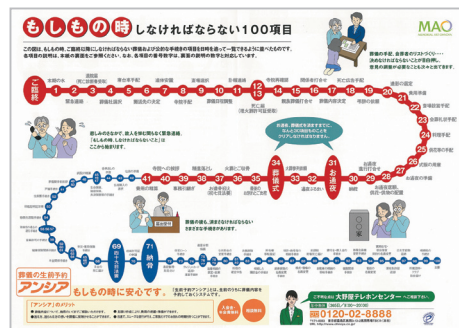
なんと約30項目のことをクリアしなければなりません。

葬儀後も、済まさなければならないさまざまな手続きがあります。保険関係の手続きはできるだけ早く済ませましょう。役所関係の公的手続きは期限内に行います。葬儀社が代行できる手続きもありますが、公的手続きに関してはほとんどを遺族がおこないます。また、相続や遺品の整理、香典返しや葬儀でお世話になった方々への挨拶もしなければなりません。

最近では生前から自分の葬儀について、「自分らしい葬儀ができるよう」また「残された家族が困らないよう」にと、会葬者数や会葬者リストの作成、祭壇や葬儀の

スタイル、費用見積りなどを決めておく「生前予約」といわれる葬儀社のサービスに関心が高まっています。

信頼のできる葬儀社を選択し、このようなサービスを検討するのもしどいうときに安心です。



メモリアルアートの大野屋で差し上げている「もしもの時しなければならない100項目」

注目される「リビング葬」



フューネラルリビング横浜

近年、首都圏を中心に葬送のあり方に新しい動きが見られるようになってきました。

少子高齢化や核家族化、社会状況や意識の変化に伴い、さまざまなかたちのお葬式が行われるようになりました。背景には近所付き合いや社会的なつながりが希薄になったり、宗教観や死生観の変化、また男性の場合などは、高齢化により会社などを退職したあと亡くなるまでの期間が長くなり、会社関係の会葬者が減っていくなどさまざまな要因が葬儀への意識の変化をもたらしていると考えられます。

その例として会葬者が減少していく中、家族だけで故人を見送る「家族葬」が近年話題でしたが最近では、「リビング葬」といわれる葬儀スタイルが注目を集めています。「リビング葬」は単に葬儀の規模を小さくしたものや費用面のみを考えたものと違い、従来あった葬儀本来の目的である家族と故人との

お別れの時間をゆったりとることを目的に自宅のような環境と設備を整えた新しいタイプの葬儀式場で行うものです。現在、多くの人が病院で亡くなった場合、住宅事情などで遺体を自宅に安置できず、病院から直接葬儀場に運ぶために家族だけの最後のお別れの時間が過ぎることができません。

また通夜から葬儀では式の進行と接客に追われ、ゆっくりと故人とのお別れができなかった、というご遺族の声も多く聞かれます。「リビング葬」が行える施設には、大型のリビングルーム・キッチン&ダイニングや和室や浴室を備え自宅のように利用できるほか葬儀スタッフは、基本的にはご遺族の要望が無い限り施設内に立ち入らない場合が多く、家族や故人とのかかわりの深い方々でお別れの時間を持つことができるのが大きな特徴です。

また、20名程度で行われることが多いため、食事などが通常の葬儀のものとは違いコース料理などこだわりを持ったメニューが用意されている場合もあります。葬儀内容を生前に予約する人が増えるなど葬儀のあり方に関する考え方やこだわりを持った人たちのニーズを捉えた葬儀スタイルのひとつと言えるようです。

増えています。葬儀の生前予約



メモリアルアートの大野屋で差し上げている、生前予約ガイドブック「わたしの想い、家族の想い」

多様化が進む葬儀、「自分らしいお葬式がしたい」「家族に自分の葬儀の心配をさせたくない」など敬遠されがちだった「死の準備」を前向きにとらえ、最近では葬儀の希望などを書き込む「エンディングノート」が続々発行されるなど、自分の葬儀について内容や費用、支払い方法などを生前に葬儀社と打合せし、予約・契約する人が増えてきました。お葬式はやり直しがきかないものです。よりよいお別れにするためには、生前に内容を決めておくのが一番よい方法です。

「生前予約」とは、自分の葬儀内容やそれに対する費用、支払い方法などを生前に葬儀社と決めておくことです。家族の同意を前提としていることがほとんどです。葬儀社のいいなりになったり、費用を不明瞭に感じたり、事前に計画を立てられないことが葬儀のマイナス要因になっていました。事前に、こんな葬儀で、

誰に知らせて、予算はいくらで…と計画を立てておくことがいざという時の家族の負担を減らすことになります。

葬送業者が扱う「生前予約」では希望の葬儀の相談を受け、具体的に提案書などにまとめたものにして「生前予約書(見積書)」とします。これには緊急連絡人として親族を指定しておくことが必要です。また、本人の了解もとっておきます。身寄りのない单身者も、親族以外の第三者を後見人として立てることができれば利用できるものもあります。また、業者によっては入会金や年会費を必要とする場合があります。

契約のポイントとして確認しておきたいことは ①契約や変更が可能か(予約後、周囲の事情や本人の考えが変わることも。解約や変更ができるところを選びます) ②支払いは契約実行後(先払いだと、業者が倒産した場合など契約が実行されないおそれがあります) ③葬儀費用のスライド(物価が値上がりしても、契約どおりの価格でやってもらえるのか、その保証期間を確認) ④契約実施の保証(予約先が信頼できる業者であるかどうかを見極める)などです。

葬儀社によってさまざまな生前予約システムがありますので、内容をよく確認し、信頼できる会社を選択しましょう。